

イノベーションと財務パフォーマンスとの関係性の研究

柴田学園大学短期大学部 生活科 小磯 明

TEL 0172-32-6151 FAX 0172-32-6153

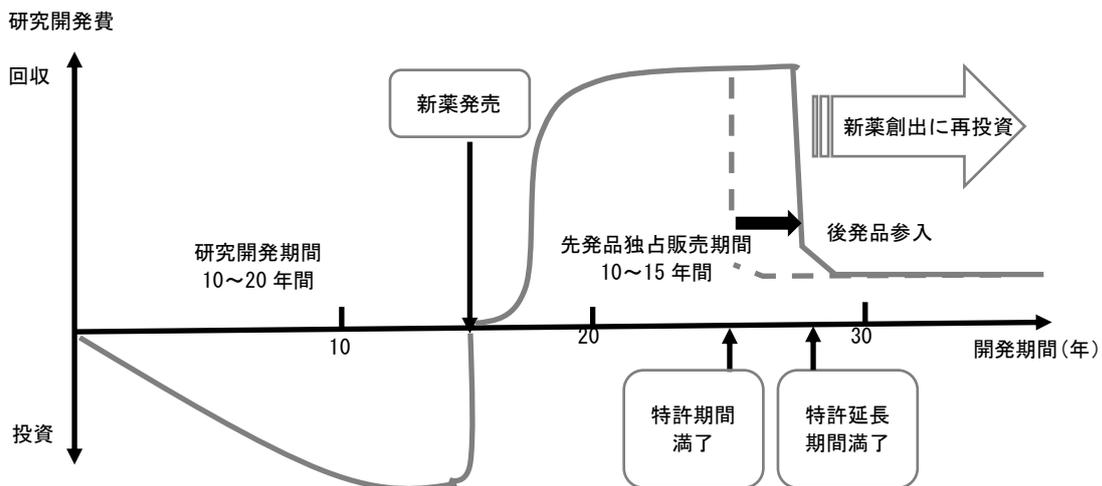
e-mail a-koiso@shibata.ac.jp

キーワード

イノベーション、コア・コンピタンス、特許、財務パフォーマンス

イノベーションを通じた新薬創出の可能性について、日本の製薬企業の業績との関係性を明らかにしました。特許数は競争優位の源泉であり、イノベーションを誘発する利益を増大させるとの仮説のもと、企業業績と企業グローバル化の2つについて、統計的に有意差があるかを検証しました。

分析の結果、総売上高、研究開発費は仮説が支持され、営業利益は一部支持されました。海外売上高比率についても、やはり仮説が支持されました。仮説検証を踏まえて、新薬創出は売上高と営業利益、研究開発費を増大させ企業業績を拡大させることで、さらなるイノベーションを誘発し、研究開発費を増大させることを明らかにしました。また、イノベーションを生み出した企業は、海外売上高比率を増加させているグローバル志向の企業であることも明らかにしました。



上の図は、「医薬品の研究・開発投資と特許」について示したものです。図からわかるように、研究開発投資の期間が長ければ長いほど回収期間が短くなると同時に利益も減少します。投資と回収の分岐点の見極めが重要となることが理解できます。

この研究は製薬企業の研究でしたが、どの産業分野でも同じと推測されます。イノベーションの創出は、地域の企業の利益を増大させ、地域経済を活性化させる原動力になると考えます。